



# Level 8-9

2024年度  
第2回

問題

用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。  
まず、下記の注意をよく読んでください。

## □ 検定上の注意 □

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。
6. 字数条件のある問題に解答するときは、句読点や記号も一字に数えます。

受検番号

氏名

## 《問題Ⅰ》

第一問 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

経済活動においては、できる限り国家の干渉と強制がなく、規制を緩和することがよいとされている。これは国家が市場に介入し、取引の自発性や多様性が制限されたり、作為的にゆがめられたりすると、経済社会全体が資源のロスを経験すると考えられるからだ。自由市場で成立する価格が、経済行動に合理性のある調和と秩序をもたらし、さらには社会全体の厚生も高めるのである。

国家による干渉と強制が好ましくないといえるもう一つの理由に、単一的な国家の意向だけではなく、多くの立場からのアイデアが市場に出回ること、予測できない未来に対応する力が高まることが挙げられる。多様な価値観に基づきさまざまな思考が市場に参加し、競うことが、新しい方法を生み出す重要な要素になる。経済競争では、誰がいちばん優れているかをあらかじめ知ることはできない。その過程を通して、<sup>①</sup>はじめて最適な経済生産の方法が確立されていくのだ。つまり、競争は実験のようなものであり、その発見のための手続きといえる。自由な競争や実験を許さないことで、さまざまな可能性が奪われ、それはそのまま未来への扉を閉ざすことになる。

(1) — 線部①「その過程」とはどのようなことですか。本文中から四字で抜き出して答えなさい。

(2) — 線部②「その発見」とはどのようなことですか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

第二問 次の文章の（①）～（④）にあてはまる文を後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を

書きなさい。ただし、不要な文が一つある。

科学的な発見の中でも、その再現性や有用性の高さから後世に残っているものは、長い時間の中で何らかの再確認が試みられ、修正が加えられている。科学は常に進化する生き物のようだ。（①）。それが科学の長所でもある。現在の姿がいかにも素晴らしくとも、まったく変化のないものには発展もない。と同時に、このことは、科学が教えるところは、すべて修正される可能性がある、ということでもある。（②）。このように科学の知見が常に不完全であることは、科学がもつ構造的な宿命であるといってもよい。（③）。より正確にいうなら、仮に百パーセント正しいところまで修正されたとしても、科学として「これで完全に正しいので、おしまい」と判定する手立てが用意されていないのである。だから、科学的知見には、「正しい」「正しくない」という二つのものがあるのではない。（④）。科学を支える根底にあるのは、物事を先入観なくあるがままに見て、自分の理性でその意味や仕組みを考えることだ。信頼に足る情報を集め、真摯に考えることこそが、唯一大切なことである。

ア 進化して成長するという性質は、それを不動の真理とはいえないことに帰結してしまうのだ

イ それがどのくらい確からしいのか、という問題が存在するだけなのである

ウ 科学という大きなくくりの中には、発展途上な分野もあれば、成熟した分野もある

エ 少しずつ変化してより適応したものが生き延び、さらに成長する

オ  
い  
どれだけ修正を重ね、少しずつ真実に近づいていっても、それは百パーセントの正しさを保証するものではない

## 《問題Ⅱ》

第一問 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。なお、(1)～(7)の数字は段落番号を表している。

(1) 幼児にとって比喩は既知から未知へ飛躍する翼の<sup>①</sup>ようなものである。子供が大人に比べておもしろい詩的表現にすぐれているのも、言葉を知らないからやむなく、あり合わせの語を使って言いあらわそうとする、それがたくまらずして、詩的比喩に近いものになるのだ。

(2) 綽名<sup>あだな</sup>をつけるのも比喩作用によることが多い。だれでもはじめから綽名があるのではない。新しい命名をしようとしてまず発動するのが比喩本能である。黒ブチの眼鏡をかけているから、トンボだというのは、外形的比喩ともいべきものである。見た目の印象が基本になっている。それに対して、無形の比喩ともいべきものがあって、関係の類似による命名を行う。たとえば、\*ナフタリン。ナフタリンは虫が好かない。したがって、いやな奴<sup>やつ</sup>をナフタリンと呼ぶというようなのがそれである。

(3) おもしろい綽名はかなり創造性を秘めているように思われる。さらに注意すべきは、その命名にかなり<sup>②</sup>普遍性のあることである。偶然についた綽名であっても、いかにもうまくつけたと感心することがすくなくない。あまりうれしくない綽名を頂戴した先生が転勤して、こんどはもうすこしましなものにしてほしいと思っても、いざつけられてみると、前のとほとんど同じだということがよくあるという。綽名命名の基礎には相当はつきりした共通要素があるに違いない。

(4) 綽名など問題にならないと考えられやすいが、綽名もつけられないような頭では、新しい発見などおぼつかないということもできる。子供は綽名をつける名人だが、それだけ創造性が豊かだということになるかもしれない。大人にはスピードをスピードと呼ぶ散文的言語の使用が多い。詩人は子供の心を失わずに、ものごとを新しい綽名で呼ぶ能力にめぐまれた精神の持ち主だと考えることもできる。

(5) 子供のときに活発におこる比喩的言語の使用は、人類の歴史の幼児期においても見られるはずである。<sup>③</sup> 個体発生と系統発生の\*パラレリズムはここでも妥当するように思われる。どこの国の言語でも古い時代には比喩的表現が多い。<sup>④</sup> ひとつの事物をひとつの比喩語で表現するといった小規模なものではなくて、説話全体が比喩的性格のものであることもすくなくない。\*寓話とか\*アレゴリーといわれるジャンルがそれである。神話には、文字通りに解することができない多くの物語が含まれているものだ。

(6) やはり、言語表現の手段が限られており、分析の方法が未発達である段階では広義の比喩が、認識と表現の第一原理にならなくてはならないことを物語っている。言語が整備されて、<sup>⑤</sup>あるがまま<sup>⑥</sup>を表現するリアリズムが尊重されるようになると、直観的で雑駁なところをもって比喩が敬遠されるようになる。子供るとき詩的な表現をしていたのが、大人になると、なまじ細かい表現を知っているために、感動もなく言葉を使う散文しか書けなくなってしまうのに通じる。

(7) <sup>⑦</sup>時の流れ<sup>⑧</sup>という言葉の流れ<sup>⑨</sup>はやかましくいえば、比喩であるが、いまこれを比喩と感じる人はあるまい。<sup>⑩</sup>年上、年下<sup>⑪</sup>、もやはり、より多く年をとっているかどうかを空間の上下関係であらわそうとしたもので、りっぱに比喩である。だいたい、年齢といった抽象的なことをあらわすのはかなり困難だから、何らかの比喩を用いるほかは

ない。年長、年少というのも同じく比喩的である。

(外山滋比古『知的創造のヒント』)

\*ナフタリン：おもに衣服の保管の際に用いる防虫用の薬剤。

\*パラレリズム：二つのことが同時に起こること。

\*寓話：教訓的な内容を、他の事柄にかこつけて表した例え話。

\*アレゴリー：抽象的な概念や思想を具体的なイメージで暗示する表現方法。

(1) — 線部① 「既知から未知へ飛躍する翼」とは何か、本文中から三字で抜き出して答えなさい。

(2) — 線部② 「普遍性のあること」とは、どのようなことですか。本文の言葉を使って二十字以内で答えなさい  
(句読点は含みません)。

(3) — 線部③ 「個体発生と系統発生のパラレリズムはここでも妥当するように思われる」とは、どのようなことですか。後のア〜エから選んで記号で答えなさい。

ア 言語表現の手段が未発達である段階では比喩が認識と表現の手段になり、言語が整備されてリアリズムが尊重されると比喩が敬遠されるようになること

イ 外形的比喩ともいえるべき表現から関係の類似による無形の比喩への移り変わりが、子供の比喩的言語にも人類の初期の言語にも見られること。

ウ ひとつの事物をひとつの比喩語で表現する小規模なもの、寓話やアレゴリーのように説話全体が比喩表現であるものが同じ言語の中で同時発生すること。

エ 子供が言葉を知らないために詩的な比喩表現をすること、どこの国の言語でも古い時代には比喩的表現が多いことが類似していること。

(4) — 線部④「ひとつの事物をひとつの比喩語で表現するといった小規模なもの」の例として本文に挙げられていたものを漢字二字で答えなさい。

(5) 本文の第五段落は、文章全体の中でどのような役割を果たしていますか。後のア～エから選んで記号で答えなさい。

ア 前段落までの内容をまとめ、次段落で述べる意見につなげる役割。

イ 前段落で述べたことの例を示し、意見をより具体的に説明する役割。

ウ 前段落までの内容からいったん離れて、新たな論を展開する役割。

エ 前段落で述べたことと反対の意見を述べることで、自説を明確にする役割。

**第二問** 次の文章に書かれたことと、内容が矛盾していない文をア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

植物は無機物を原料にして有機物合成をおこなうことができる。すなわち、太陽の光エネルギーを化学的なエネルギーに変換することができる。一方で動物は既に有機物になっているものを獲得してエネルギーとしている。つまり、動物にとって植物は不可欠だが、植物にとって動物は必ずしも必要ではない。そこで、植物のような生物を独立栄養生物、動物のような生物を従属栄養生物と呼ぶ。このように動物は植物に依存しているのだが、生物の「食べる食べられる」の関係を弱肉強食という言葉で表すと、あたかも植物は弱く、動物が強いかなような印象を受ける。

ア すべてのエネルギーは植物によって作られている。

イ 動物にとって不可欠なのは、有機物合成をする存在である。

ウ 弱肉強食という言葉は、動物が植物に依存しているという印象を与える。

エ 植物が独立栄養生物と呼ばれるのは、無機物に依存しないからである。

## 《問題Ⅲ》 次の問題に答えなさい。

**第一問** 後の文章には次の一文が抜けています。元の位置に戻し、直後の五字（句読点などの記号を含む）を抜き出して書きなさい。

このため、文字が発明された後を有史時代、文字がなかった時代を先史時代と呼んでいる。

文字の発明は文化の伝達や発達に欠かせないものである。文字が始めて発明されたのは、紀元前三千五百年くらい前であるが、徐々に一定の様式に統一され、人々の間に広がっていった。文字が発明されると書物が作られ、やがて書物を集めた、現代でいう図書館のようなものが作られた。図書館に集められた書物から、人間は歴史を解読しようとするようになったのである。紀元前千五百年前までに、世界では三種の文字が現れたとされている。エジプトでパピルスに書かれた象形文字、バビロニアで粘土板に刻まれたくさび形文字、中国で亀の甲羅や牛の骨などに記された甲骨文字である。このうち、現在も使われているのは、甲骨文字が原型となった漢字だけである。文字ができて、まず書かれたのは物語だと言われており、それまでは口伝で伝えられてきたものが書きとめられ、その中には今に残っているものがある。

## 第二問 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

これからの労働市場において、女性の社会進出は欠かせない要素である。女性の社会進出はビジネスにおける多様性の増加という点でも注目されてきた。①女性が加わることにより、男性だけで考えているよりも新規性の高いアイデアやイノベーションが生まれる可能性が高まるからだ。

ただし、多様性を増加させればよい結果につながるということではない。②確かに多様性は必要なのだが、人種や出身地、性別や年齢といった属性的な多様性は、あまり組織のパフォーマンスに貢献するものではないことが分かっている。いくら属性上で多様な人がいたとしても、その人たちのスキルや経験が似たようなものであれば、成果にはあまり結びつかないからだ。③属性的な多様性より重要なのは、スキルや経験面での多様性である。異なるスキルや経験、専門性を持った人がいれば、それだけ違う観点が加わる。

④スキルの多様性も、単純に多様であればよいというわけではない。例えば、宇宙の衛星間の新しい通信システムを開発するプロジェクトを行うとしよう。この際に必要なスキルは、電気工学や電子工学といった応用物理学の知識を持つ人であろう。情報理論や通信理論の専門家や、ソフトウェアエンジニアや材料工学の高度なスキルも必要になる。

では、このプロジェクトに、途上国で開発援助をした経験は必要だろうか。おそらくあまり必要とはいえない。その経験はチームの多様性を上げるかもしれないが、プロジェクトの成果には影響しないであろう。

⑤当たり前のことだが、どのようなスキルや経験が必要かは、\*タスクによって異なる。その際、男性か女性かという属性は関係がない。必要とされるスキルを持つ人を集めた結果、全員が女性であることもあれば、その逆であることも

あるだろう。成果を上げるために必要なスキルがきちんと揃っていることが重要である。ただ属性が多様であることにはあまり意味がない。<sup>⑦</sup>多様であることが求められているのではなく、価値の異なる多様なニーズに応えるためには多様性が不可欠で、そこにはあらゆる属性をもった人がいると考えるとよい。

\*イノベーション：革新的な技術や発想によって新たな価値を生み出し、社会に大きな変化をもたらす取り組み。

\*タスク：ある目標や目的を達成するための具体的な仕事や活動。

(1) この文章の要点となる文を①～⑦の中から二つ選び、記号で答えなさい。

(2) (1)で答えた文をもとに、必要な言葉を補って、この文章の要旨を百字以上百三十字以内で書きなさい。

《問題Ⅳ》 次の資料と、その説明を読んで、後の問題に答えなさい。

【資料1】は「社会人基礎力」とよばれるもので、経済産業省が2006年に提唱したものである。

【資料1】

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力（13つの能力・12の能力要素）」として定義。

前に踏み出す力

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

( A )

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

【資料2】 社会人基礎力の中で重要だと思う要素（複数回答可）

企業			学生		
1	主体性	77.8%	1	主体性	72.3%
2	実行力	53.5%	2	実行力	60.6%
3	柔軟性	48.2%	3	課題発見力	56.0%
4	傾聴力	47.6%	4	発信力	54.5%
5	規律性	42.4%	5	計画力	53.4%
6	ストレスコントロール力	39.6%	6	傾聴力	52.7%
7	状況把握力	35.3%	7	柔軟性	52.6%
8	発信力	33.3%	8	状況把握力	50.4%
9	課題発見力	33.0%	9	ストレスコントロール力	47.9%
10	働きかけ力	25.7%	10	規律性	45.9%
11	計画力	24.8%	11	働きかけ力	44.8%
12	創造力	18.0%	12	創造力	43.9%

【資料3】 社会人基礎力の中でもっとも重要だと思う要素（一要素のみ）

企業			学生		
1	主体性	42.2%	1	主体性	25.7%
2	実行力	10.5%	2	ストレスコントロール力	11.4%
3	傾聴力	9.1%	3	実行力	10.5%
4	柔軟性	8.1%	4	柔軟性	7.1%
5	規律性	6.7%	5	課題発見力	6.8%
6	状況把握力	5.5%	6	創造力	6.2%
7	ストレスコントロール力	4.9%	7	発信力	6.0%
8	発信力	3.9%	8	規律性	6.0%
9	課題発見力	3.2%	9	計画力	5.8%
10	働きかけ力	2.7%	10	傾聴力	5.2%
11	計画力	1.6%	11	状況把握力	4.8%
12	創造力	1.6%	12	働きかけ力	4.4%

（いずれも民間調べ）

【資料2】と【資料3】は、【資料1】について、求人を行う企業と、就職を希望する学生（高校生および大学生）が、それぞれに重要だと考えた要素を答えたものである。

第一問 【資料1】の（A）にあてはまる言葉として、最も適切だと思われるものを次のア～エの中から選び、記

号で答えなさい。

- ア チームで働く力
- イ 集団を統率する力
- ウ 慎重に行動する力
- エ 広い視野を持つ力

第二問 【資料2】から読み取れることとして、誤っているものをア～エの中から二つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学生は企業よりも規律性が重要だとする順位は低いが、その割合は企業よりも高い。
- イ 半数以上が重要だと考えている要素の数は、学生より企業が多い。
- ウ 創造力はともに順位は最下位であるが、企業は学生よりそれを重視している。
- エ 発信力を重視している学生は多いが、それを重視する企業は三分の一程度である。
- オ 企業も学生も、半数以上が実行力を必要な要素として挙げている。

**第三問** 【資料3】から読み取れることとして、次の(1)～(3)の文は、企業の回答、学生の回答のうち、いずれについて

述べたものですか。企業の場合はA、学生の場合はBと答えなさい。

- (1) 柔軟性は企業、学生とも重要だと考えているが、その割合を比べると低い値になっている。
- (2) 主体性が最も重要だとする回答が多く、全体の4割以上に上っている。
- (3) 計画力や創造力よりも、情報把握力や働きかけ力を重視している。

**第四問** 【資料1～3】から、企業と学生の回答を比較すると、どのようなことが言えますか。最も適切だと思われる

ものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 学生は【資料1】の「考え抜く力」に対する順位が企業より低く、どちらかといえば相手を理解する協調性を重視している。

イ 企業、学生ともに、【資料1】の「前に踏み出す力」の3つの要素が上位に選ばれていることから、積極的に仕事に取り組む姿勢が必要だと考えている。

ウ 学生が重視する要素は、【資料1】の「3つの力」からまんべんなく選ぶ結果になっているが、企業においてはそうでもない。

エ 企業での順位が高く、学生での順位がさほど高くない要素としてストレスコントロール力が挙げられる。

第五問 次の【資料4】は、【資料2】と【資料3】で柔軟性が重要だと回答した企業と学生が、それぞれの理由を述べたものです。これを読んで、企業と学生の柔軟性のとらえ方の違いを「学生」「企業」「対象」という言葉を使って五十字以上八十字以内で書きなさい。

#### 【資料4】

社会人基礎力の中で「柔軟性」の要素がもっとも重要だと思う理由

##### 【企業】

- 仕事の内容や人間関係は常に変化するので、それに適応する力が重要になる。
- 顧客や関係者など、相手の立場に立って考える力はどんな場面でも必要。
- 同じような課題でも、お客様によって解決方法が異なる場合があるので臨機応変で柔軟な対応力が必要です。
- お客様のニーズに応えるためには柔軟な考えや行動が求められるため。
- 計画が予定通りにいかない場合、そこで柔軟な対応を考えることが大切になります。

##### 【学生】

- 複数人で同じ仕事や課題に取り組む時に必要だと思われるから。
- 社会に出ると、チーム内での意見の違いが学生時代よりも多くなりそうだから。
- 会社内部の上下関係も柔軟性があればうまくやっていけると思う。
- グループで進めるプロジェクトは他人の意見を理解することが大切。
- 環境や状況の変化についていけないと、社会人としてやっていけないから。

(いずれも民間調べ)

《問題V》 次の文章について、あなたの意見を述べる文章を書きなさい。ただし、後の図の形になるように、AとDをそれぞれ一つの段落とし、全部で二百字以上、二百五十字以内で書くこと。

現在の社会において、SNSは情報発信や情報交換などのコミュニケーションツールとして幅広く活用されており、個人だけでなく、企業や団体にとっても欠かすことができないものとなっています。2023年の利用率は10代と60代の男性は25・7%、女性は31・2%で、中でも10代が最も高く66・4%となっています（総務省調査による）。

SNSの普及とともに、その問題点についてもさまざまな意見が論じられてきましたが、とくに人間関係については次のようなものがあります。

- ・ 根拠のない誹謗中傷を受けることがある。
- ・ 相手の気持ちがわかりにくい。

一方でメリットとされていることには以下のような意見があります。

- ・ 新しい友人や相談相手ができる。
- ・ ほどよい距離感の人間関係をつくることができる。

このような点をふまえて、あなたはSNSの普及は人間関係をよいものにしたと思いますか。



